

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 24 人（内訳：大学准教授 1 人、医師会（内科・リハビリテーション科）1 人、がん専門医 1 人、がん経験者 1 人、病院薬剤師会 1 人、校長 3 人、市町村教育委員会指導主事 2 人、教諭 4 人、養護教諭 4 人、県保健医療部 1 人、県教育局 5 人） ※県教育局は事務局 4 人を含む委員のうち学校関係者については、原則として各団体等からの推薦によるものとし、「校長会（小・中・高）」「学校体育連盟等（小・中・高）」「養護教諭会」と連携した。また、「医師会」「病院薬剤師会」「保健医療部疾病対策課」と連携した。

2. 開催時期、検討内容

- ・第 1 回協議会 令和 6 年 7 月 9 日（火）（がん教育推進計画の検討・決定）
- ・第 2 回協議会 令和 7 年 1 月 15 日（水）（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（公立学校の教職員・教育委員会の担当者・外部講師関係者等を対象）

教職員及び外部講師関係者等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として動画配信により開催した。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、授業実践者（小・中・高）による発表、外部講師による実際の授業実践紹介、外部講師による講演、Q&A 方式による質疑回答を通して、教職員及び外部講師関係者等の資質向上を図った。

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

- ・小学校授業研究会 特別活動（会場：所沢市立椿峰小学校）
- ・中学校授業研究会 保健体育科（保健分野）（会場：北本市立西中学校）
- ・高等学校授業研究会 保健体育科（科目保健）（会場：県立杉戸高等学校）

○実施報告書の作成及び配付による普及

指導者研修会の参加者アンケートや実践授業の学習指導案等を掲載した実施報告書を作成した。報告書は県のホームページにも掲載し、学校におけるがん教育の推進に向けて活用を依頼した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○保健医療部疾病対策課と連携した「がん教育外部講師派遣事業」の実施

「がん教育外部講師派遣事業（疾病対策課事業）」について、各学校へ周知した。

○外部講師リストの活用

保健医療部が取りまとめた外部講師のリストを各学校に送付して、学校が直接、依頼したい外部講師へ連絡できるようにした。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業 ※高等学校の実践は省略

【小学校】

体育科（保健領域）、道徳科、家庭科、特別活動の教科等横断的な視点で学校の教育活動全体でがん教育に取り組み、授業研究会では、学級活動（2）において、外部講師（株式会社輝き LAND 顧問 佐藤 晋一 氏）による助言も得ながら、がんを予防するための生活習慣について考え、健康的な日常生活の計画を立てる授業を展開した。

- (1) 日 時 令和6年10月24日（木）
- (2) 参加者 小学校・中学校の教職員、指導主事、外部講師関係者、大学生、授業検討部会員 等
- (3) 会 場 所沢市立椿峰小学校
- (4) 授業者 池田 哲将 教諭（T1）・上 美紗 養護教諭（T2）
- (5) 題 材 特別活動「健康な生活とかけがえのない命」～健康な生活を長く続けよう～
学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- (6) 参加人数 74名



1学期の家庭科の学習で立てた1日の生活スケジュールを、がん教育で学習したことをもとに見直している様子



外部講師（がん経験者）から、自身の経験も踏まえた話を聞いている児童の様子

【中学校】

保健体育科（保健分野）の授業で行うがん教育授業研究会の事前学習として、「ピンクリボンの会きたもと」による講義を実施した。また、事後学習として、埼玉医科大学総合医療センターの儀賀理暁教授による講話を行った。どちらも学級活動の時間に実施した。

【事前学習】

- (1) 日 時 令和6年10月1日（火）
- (2) 参加者 北本市立西中学校第2学年生徒及び教職員
- (3) 会 場 北本市立西中学校
- (4) 講 義 「知ってほしい がんのこと」



【事後学習】

- (1) 日 時 令和6年11月12日（火）
- (2) 参加者 北本市立西中学校第2学年生徒及び教職員
- (3) 会 場 北本市立西中学校
- (4) 講 話 内容 ①がんとその予防
②緩和ケア現場の実際
③在りたい自分を考える



(3) その他

○外部講師リストの活用

保健医療部が取りまとめた外部講師のリストを各学校に送付して、学校が直接、依頼したい外部講師へ連絡できるようにした。

○授業研究会後の研究協議における外部講師と教職員との意見交換

小学校、中学校、高等学校のモデル校で開催した授業研究会に、外部講師関係者の参加を募った。参加していただいた外部講師関係者には、教職員が行う研究協議の際に、各グループを巡回してもらい、外部講師の視点による話をしていただくなど、教職員と外部講師が直接意見交換を行う場を設定した。

研究協議に参加した教職員からは、意見交換した外部講師とのつながりをもつことができたので、次年度に外部講師を活用したがん教育の計画を立てる参考になった等の感想が寄せられた。

2 事業の達成度について

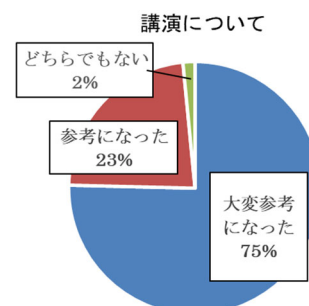
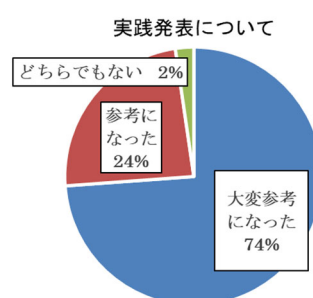
(1) 協議会について

ア 計画通りに2回開催することができた。また、協議会の委員に、授業研究会の様子等の動画を限定公開したことにより、実際に行われた授業に対する意見も伺うことができた。

(2) 「がん教育」指導者研修会

ア がん教育に携わる教職員及び外部講師等を

対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。



イ 行政説明において、学校におけるがん教育の

定義や目標、及び外部講師と連携したがん教育の在り方や、配慮事項等について改めて確認するなど、学校におけるがん教育の方向性を示すことができた。また、県立久喜図書館から、図書館を活用したがん情報の入手方法について案内するなど有意義な情報を提供した。

ウ 実践発表において、昨年度のモデル校の授業者から、がん教育を通じて目指す子供の姿、授業づくりに向けた思い、実践までに生じた葛藤など、具体的な話を通じて、効果的な指導について普及啓発ができた。また、発達段階に応じた系統的な指導についての理解が進んだ。

エ 外部講師による実際の授業動画（小学校・45分）を限定配信したことにより、これまで外部講師が行う実際の指導を見たことがなかった教職員が、外部講師を活用することの有効性を深く理解することにつながった。また、外部講師関係者にとっても、自身の指導の幅を広げるきっかけとなった。

オ 埼玉医科大学総合医療センター教授 儀賀 理暁 氏による講演「学校と外部講師が効果的に連携したがん教育の推進」を事前に寄せてもらった参加者からの質問に回答いただくQ & A方式にしたことにより、事前打合せや配慮事項を含め、学校と外部講師がどのように連携しながら実際にがん教育を実施しているのかについて、多くの参加者が共通して抱えている疑問を解消できるような講演となった。

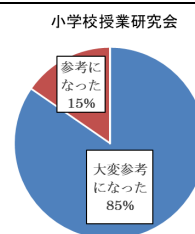
(3) 授業研究会について

ア 授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導、及び教科等横断的な取組、外部講師と連携した取組などについて検討を重ね、授業研究会では、主体的・対話的で深い学びの視点による効果的な指導方法（学習活動）について、提案することができた。また、充実した研究協議を行うことができた。

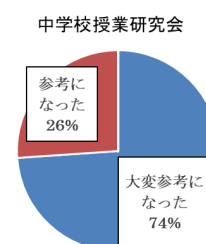
イ 小・中・高のモデル校全てにおいて、がん経験者やがん患者団体、がん専門医などの外部講師と連携した指導を実施することにより、効果的ながん教育を実施することができた。

ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。

エ 小学校のモデル校では、体育科・家庭科・道徳科・特別活動の教科等横断的な取組を実施した。公開授業では、特別活動の学級活動（２）において、がんを予防するための生活習慣について、１学期の家庭科で考えた日常生活の計画を見直しながら、健康的な日常生活の計画を児童一人一人が立てることができた。また、「埼玉県がん教育外部講師リスト」を活用し、佐藤晋一氏（株式会社輝き LAND）に外部講師の依頼をし、事前指導と授業研究会当日の授業において、連携した取組を進めることができた。

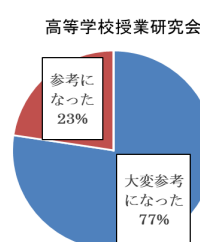


オ 中学校のモデル校では、保健体育科保健分野において学習した既習事項を活用して、家族にがん検診を勧める場面を想定したロールプレイングを取り入れた授業実践となった。事前学習として、「ピンクリボンの会きたもと」の外部講師をお招きし、講義や体験活動を実施したこともあり、ロールプレイングでは、家族を説得しようとしたり、観察者役の生徒が評価する際に、キーワードを使ったりしている場面が多く見られた。



また、授業研究会の実施後に、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）による事後指導を実施したりするなど、外部講師を積極的に活用した研究を推進することができた。

カ 高等学校のモデル校では、保健体育科科目保健の授業を実施した。既習事項の確認として、授業開始直後にタブレット端末を使用した小テストを実施し、知識の定着を図った。また、授業者を「がん検診に行こう」と思わせるために、授業者の生活習慣と既習事項を結び付けながら、各自でプレゼンテーション資料を作成し、次時にどのような発表をする予定であるかをグループごとに伝え合った。公開授業の前時には、養護教諭も授業に参画し、自らの経験を語るなど、生徒が「がん」をより身近に感じられるよう工夫した。授業研究会の実施後にがん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）による事後指導を実施したりするなど、外部講師を積極的に活用した研究を推進することができた。



（４）外部講師の活用体制整備

- ア 県の登録外部講師に指導可能な地域を確認し、リストにしたものを各学校に提供し、学校が直接外部講師に指導依頼をすることができるようにした。
- イ 令和５年度中に県の外部講師登録に至らなかった方への登録支援として、保健医療部に働きかけ、疾病対策課事業で行う外部講師によるがん教育の授業を参観する機会を設けた。
- ウ 指導者研修会に外部講師関係者の参加を促した結果、３７名が参加した。
- エ 授業研究会（小・中・高）に外部講師関係者の参加を促した結果、のべ４名が参加し、研究協議で教職員と意見交換をすることができた。

３ 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

（１）各学校の教育課程への位置付けの明確化

- ア 学習指導要領に位置付けのない小学校でも、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。
- イ がん教育の目標を達成するためには、体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、提案していくことが課題であるので、小・中・高の系統性を踏まえた指導計画を研究していく。

（２）外部講師の活用について

- ア がん教育外部講師リストに講師が対応可能な指導内容等、学校が外部講師を選定する際に知りたい情報を追記するなど、リストを更新していく。
- イ 外部講師の育成や資質向上のため、指導者研修会や授業研究会に外部講師関係者の参加を促していく。

（３）研修会等の充実と普及・推進

- ア 県内各学校でがん教育の取組を実践していくために、地区のバランスを考慮したモデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。